3/25-31#6カナンの良き地によって予表されている私たちの安息日の安息としてのキリストBird'sEyeViewIヘブル書の中にある安息日の安息の正しい理解を持つには、聖書の中で最初に述べられている安息日の安息の意義を知る必要があります創2:2 第七日に、神は行なっていた彼の働きを終えられた。そして第七日に、神は行なっていたすべての働きから安息された。A神は第七日に安息しました。なぜなら、彼は彼の働きを終え、満足したからです。神の栄光が現されたのは、人が神のかたちを持ち、神の統治を伴う神の権威が行使されて、神の敵を征服しようとしていたからです。創1:26 われわれのかたちに、われわれの姿にしたがって、人を造ろう。そして彼らに、海の魚と空の鳥と家畜と全地と地を這うすべての這うものを治めさせよう。B地上で人が神を表現し神を代行するという状況があるとき、その状況は神にとって安息日の安息です。安息日の安息とは、神の心の願いにおいて神が満足を得ることです。C神の第七日は、人の第一日でした。人は創造された後、神の働きに加わったのではなく、神の安息へ入りました。人が創造されたのは、働くためではなく、神をもって満足し、神と共に安息するためでした。D安息日が表徴しているのは、神がすべてを行ない、すべてを完成し、すべてを備えたということと、人が自分のすべての働きを止めなければならないということです。安息日を守ることは、私たちの働きを止めて、神と神が私たちのために達成したすべてを、私たちの享受、安息、満足とするということです。これが神のエコノミーです。E新エルサレムは、神の究極的で永遠の安息日の安息です。なぜなら、すべての贖われた聖徒は、栄光の中の神をそこで完全に表現し、神の権威をもって永遠にわたって王として支配するからです。II安息日の安息は、私たちの安息としてのキリストであり、カナンの良き地によって予表されています。キリストは三つの段階で、聖徒たちの安息ですヘブ4:8-9 もしヨシュアが彼らを安息にもたらしていたなら、これらの事柄の後に、神は別の日について、語られはしませんでした。こういうわけで、ある安息日の安息が、神の民のために、まだ残されているのです。A召会時代では、天のキリスト、神を表現し、代表し、神を満足させた方、またご自身の働きから安息して、天で神の右に座している方は、私たちの霊の中で私たちの安息です。ヘブル4:9にある安息日の安息は、私たちの安息としてのキリストであり、カナンの良き地によって予表されています。B千年王国では、サタンが地上から除き去られた後、キリストと勝利を得た聖徒たちによって、神は表現され、代行され、満足します。そして、王国を伴うキリストは、勝利を得た聖徒たちのさらに満ち満ちた安息となります。彼らはキリストと共に共同の王となって、彼の安息にあずかり、享受します。C新しい天と新しい地では、すべての敵が、最後の敵である死を含めて、キリストに服従させられた後、キリストは、すべてを征服する方として、神の贖われたすべての民の最も満ち満ちた安息となり、永遠に至ります。Dヘブル4:8～9で述べられている安息日の安息は、最初の二つの段階、特に第二段階における、私たちの安息としてのキリストを指しています。その安息は、私たちが努め励んで追い求めて入るようにと、私たちのために残されています。III私たちは、マタイ11:28～30における主の言葉に注意を払う必要があります、「すべて労苦し重荷を負っている者は、私に来なさい。そうすれば、私はあなたがたに安息を与える。私は心の柔和なへりくだった者であるから、私のくびきを負い、私から学びなさい。そうすれば、あなたがたは魂に安息を見いだす。なぜなら、私のくびきは負いやすく、私の荷は軽いからである」A労苦は、律法の戒めや宗教的規定を守ろうと努力する労苦だけではなく、何か働きに成功しようとして奮闘する労苦を指しています。このように労苦する人はだれでも、常に重荷を負っています。B安息は、律法や宗教の下にある、あるいは働きや責任の下にある労苦と重荷から解放されることを指しているだけでなく、完全な平安と満ち満ちた満足を指しています。C主のくびきを負うとは、御父のみこころを取ることです。それは、律法や宗教のどんな義務によって規制されたり制御されたりすることや、何かの働きによって奴隷にされることではありません。それは、御父のみこころによって拘束されることです。D主はそのような生活をして、御父のみこころ以外の何も顧慮しませんでした。彼はご自身を、完全に御父のみこころに服従させました。ですから、主はご自身から学ぶようにと私たちに求めます。E柔和、あるいは温和であるとは、反対に抵抗しないことを意味し、へりくだるとは、自分を高く考えないことを意味します。彼はご自身を完全に御父のみこころに服従させ、ご自分のために何もしようとはせず、ご自分のために何かを獲得しようと期待しませんでした。ですから、状況がどうであっても、彼は心の中に安息を持っていました。彼は御父のみこころで完全に満足していました。F主のくびきを負い、彼から学ぶことによって私たちが見いだす安息は、私たちの魂のためです。それは内側の安息であって、性質において単なる外面的なものではありません。G主のくびきは御父のみこころであり、主の荷は御父のみこころを遂行する働きです。そのようなくびきは負いやすく、苦しくはありません。またそのような荷は軽く、重くはありません。H主のくびきが負いやすいことが意味するのは、主のくびき、御父のみこころが良く、親切で、柔和で、温和で、楽しいということであり、過酷で、激烈で、険しく、苦痛であることの反対であるということです。

IV 出エジプト31:12～17が啓示しているのは、安息日が幕屋の建造の命令の後にあるということです A「『あなたがたは必ず私の安息日を守らなければならない。それは、あなたがたの代々にわたる、私とあなたがたとの間のしるしであって、私があなたがたを聖別するエホバであることを、あなたがたが知るためである。…それゆえ、イスラエルの子たちは安息日を守り、永遠の契約として、代々にわたって安息日を守らなければならない。それは、永遠に私とイスラエルの子たちとの間のしるしである。それは、六日の間にエホバが天と地を造り、七日目に安息し憩われたからである』」(出13,16-17)。B七日目に、神は「安息し憩われ」ました。人は神の憩うものでした。なぜなら、人は神ご自身のかたちに創造され、霊のある者とされたからです。それは、人が神と交わることができ、神の仲間また配偶者となることができるためでした。C私たちは、以下の神聖な原則を見る必要があります。神はまず私たちに享受をもって供給し、それから私たちは神と共に働くということです。私たちは、神の働きの中で神と一であるために、彼を享受しなければなりません。Dペンテコステの日に、弟子たちは主の享受で満たされていました–「彼らは新しいぶどう酒で満たされている」(使徒2:13)。それからペテロと十一人は立って、主と共に働きました。E神にとって、それは働いて安息する事柄です。人にとって、それは安息して働く事柄です。それから、私たちは主と一になることによって主と共に働きます。F私たちは神の民として、一つのしるしを帯びているべきです。そのしるしとは、私たちは神に私たちの力、活力、すべてとなっていただく必要があり、それによって、私たちは彼と共に働いて、キリストのからだとしての召会を建造することができるというものです。これは彼を尊び、彼に栄光を帰します。G私たちが帯びるしるしとは、私たちがまず神と共に安息し、神を享受し、神のゆえに憩い、神で満たされ、それから私たちを満たす方と一になって、彼と共に働くというものです。これは神との永遠の契約、永遠の合意です。V良き地としてのキリストを享受する手段は、生きていて効力がある神の言葉です。すなわち、「どんなもろ刃の剣よりも鋭く、魂と霊、関節と骨髄を切り離すまでに刺し通して、心の思考と意図を識別することができ(ヘブル4:12)」ます A イスラエルの子たちは、神の満ち満ちた救いにあずかっている私たち新約の信者たちの予表です:1コリ10:6 これらの事柄が起こったのは、私たちへの一種の予表としてです。それは、彼らが欲望にかられたように、私たちが邪悪な事柄で、欲望にかられる者とならないためです。1第一段階で、私たちはキリストを受け入れ、贖われ、この世から救い出されます。2第二段階で、私たちは主に従うことで、さまよう者となります。それは、イスラエルの子たちが荒野をさまよったようにです。私たちがさまようことは、常に私たちの魂の中で起こります。3第三段階で、私たちは満ち満ちた方法でキリストにあずかり、彼を享受します。それは、イスラエルの子たちが良き地の豊富にあずかり、それを享受したようにです。これは私たちが霊の中で経験するものです。Bヘブル書の筆者はヘブル人信者たちに、魂の中でさまよってためらうことをしないで、霊の中へと前進して、天のキリストにあずかり、彼を享受するようにと勧めました。Cヘブル人信者たちの魂、その迷っている思い、神の救いの道に対する疑い、自分の利益を考慮することは、生きていて、活動しており、刺し通す神の言葉によって砕かれなければなりません。そうすれば、彼らの霊は魂から分けられます。

CP1主のくびきは御父のみこころであり、そのくびきは負いやすい。主のくびきを負うなら魂に安息を見出す

III 私たちは、マタイ11:28～30における主の言葉に注意を払う必要があります、「すべて労苦し重荷を負っている者は、私に来なさい。そうすれば、私はあなたがたに安息を与える。私は心の柔和なへりくだった者であるから、私のくびきを負い、私から学びなさい。そうすれば、あなたがたは魂に安息を見いだす。なぜなら、私のくびきは負いやすく、私の荷は軽いからである」 A労苦は、律法の戒めや宗教的規定を守ろうと努力する労苦だけではなく、何か働きに成功しようとして奮闘する労苦を指しています。このように労苦する人はだれでも、常に重荷を負っています。B安息は、律法や宗教の下にある、あるいは働きや責任の下にある労苦と重荷から解放されることを指しているだけでなく、完全な平安と満ち満ちた満足を指しています。C主のくびきを負うとは、御父のみこころを取ることです。それは、律法や宗教のどんな義務によって規制されたり制御されたりすることや、何かの働きによって奴隷にされることではありません。それは、御父のみこころによって拘束されることです。D主はそのような生活をして、御父のみこころ以外の何も顧慮しませんでした。彼はご自身を、完全に御父のみこころに服従させました。ですから、主はご自身から学ぶようにと私たちに求めます。F主のくびきを負い、彼から学ぶことによって私たちが見いだす安息は、私たちの魂のためです。それは内側の安息であって、性質において単なる外面的なものではありません。G主のくびきは御父のみこころであり、主の荷は御父のみこころを遂行する働きです。そのようなくびきは負いやすく、苦しくはありません。またそのような荷は軽く、重くはありません。H主のくびきが負いやすいことが意味するのは、主のくびき、すなわち、御父のみこころが良く、親切で、柔和で、温和で、楽しいということであり、過酷で、激烈で、険しく、苦痛であることの反対であるということです。

若い人たち、あなたがたは自由で解放されていると思わないでください。主の回復の中で、私たちはみなくびきを負っています。くびきを負っているのは何と良いことでしょう! 主のくびきは負いやすく、彼の荷は軽いのです。主のくびきは御父のみこころであり、彼の荷は御父のみこころを遂行する働きです。

適用:青少年・大学生、新人編

証1私は、2020年から全時間奉仕をしています。私は元々人に接することが苦手なので、福音・牧養、人の顧みにとても苦手意識があり、常に重荷を感じていました。なぜ重荷に感じていたかというと、主のくびきを負わず、天然の命の中で人と接触していたからです。以前、海花姉妹と六甲地区で奉仕していた時、よく福音や牧養に共に取り組みました。その時、姉妹の福音・牧養のやり方に自分自身とても照らされました。彼女は、人と接する時、大胆に神の言葉を語っていました。私は彼女の人の心に触れる気遣い、また人を受け入れる度量の広さにいつも圧倒されました。私は大胆に神の言葉を語ることを恐れ、人に対しての関心や愛に欠けており、排他的になって人を受け入れる度量の狭いことが暴露されました。彼女の模範から学び、福音・牧養を主のくびきの中で実行するために、訪問前に祈り、享受した詩歌を賛美しています。そうすると不思議なことに福音や訪問による牧養も重荷とは思わなくなり、むしろ主の喜びを持って行うことができるようになってきました。主に感謝します。

証2私は幼い頃から人の顔と名前を覚えるのが苦手でした。この子は本当に人の名前を覚えないと母親も思っていたそうです。私はそのことをずっとコンプレックスに感じていました。そのような私ですが、最近、祈り戦士に加わるようになり、兄弟姉妹や福音友人のことを知るようになりました。祈り戦士では週に3回、兄弟姉妹と共に祈りの時間を持っています。始めた頃は忙しい朝の30分を取られるのが正直なところ厳しいと感じていました。救われていない娘は冷ややかな目で見ているし、散歩に行きたい犬は終わるのを今か今かと待っています。始めて間もない頃は会ったこともない人の為に祈ることの重要性が分からずにいました。しかし、今まで知らなかった兄弟姉妹や友人の環境や状況が分かるようになり、自然と一つ心で祈ることが出来るようになりました。そして、人の名前を覚えられない原因は、「他人への関心が薄かった」ことにある、と気づきました。祈りを主が聞いてくださった時、本当に嬉しく感じます。誰かの為に祈ることは自分自身の平安にも繋がると実感しています。

祈りおお主イエスよ、私が天然の命の中で努力奮闘し労苦しても、安息はありません。しかし私は、主のくびきは負いやすく、主の荷は軽いことを思い出します。主のくびきを負うとは、御父のみこころを実行することです。このくびきは、良く、親切で、柔和で、温和で、楽しいのであり、過酷で、激烈で、険しく、苦痛であることの反対です。主のくびきを負えば、私の魂の中に安息があります。

CP2神の言葉は生きていて効力があり、私たちの霊の感覚と魂の不信仰を切り離すことができる

V良き地としてのキリストを享受する手段は、生きていて効力がある神の言葉です。すなわち、「どんなもろ刃の剣よりも鋭く、魂と霊、関節と骨髄を切り離すまでに刺し通して、心の思考と意図を識別することができ(ヘブル4:12)」ますCヘブル人信者たちの魂、およびその迷っている思い、神の救いの道に対する疑い、自分の利益を考慮することは、生きていて、活動しており、刺し通す神の言葉によって砕かれなければなりません。そうすれば、彼らの霊は魂から分けられます:ヘブル4:12 なぜなら、神の言は生きていて効力があり、どんなもろ刃の剣よりも鋭く、魂と霊、関節と骨髄を切り離すまでに刺し通して、心の思考と意図を識別することができるからです。2私たちが聖書を読む時はいつも、聖書は生きていて、活力を与える、鋭いものでなければならず、私たちの魂と霊を分けることができ、思考と意図を識別し、何が自己からのものであり、自己のためであるか、何が神からのものであり、神のためであるかを、明らかにするものでなければなりません。私たちは霊の中でのすべての祈りによって、言葉と信仰とを混ぜ合わせ、この言葉を生きていて、効力のあるものとしなければなりません。ヘブル4:2 というのは、彼らに宣べ伝えられたと同じように、私たちにも福音が宣べ伝えられているからです。ところが、その聞いた言は、彼らにとって益となりませんでした。それが聞いた者たちの中で、信仰と混ざり合わされなかったからです。エペソ6:17 また救いのかぶとを受け取りなさい。さらにその霊の剣、すなわちその霊である神の言葉を、3神の生きている言葉は私たちの存在の中を刺し通して、私たちの迷っている思いとさまよっている魂から私たちを救い出して、私たちの霊の中での安息日の安息であるキリストの中へともたらさなければなりません。私たちは、さまよっている私たちの魂の中でためらうべきではなく、魂を否み、霊の中へと前進し、天のキリストにあずかり、享受する必要があります。それは、私たちが千年期において、彼が王として支配するとき、王国の安息にあずかることができるためです。

詩篇の一つは、『今日、あなたがたが彼の御声を聞くなら』と言っています。あなたがたは何度もこ

の節を読んできましたが、何もあなたがたに起こりませんでした。今や私はあなたがたに語る根拠として、この詩篇を用いています。この神の言葉は生きていて活動しており、私たちの魂と霊を切り離すに違いありません。兄弟たち、…あなたがたはためらい、躊躇しています。…それは、あなたがたの魂が霊と混合しているからです。ときどき、あなたがたが静まっている時、内側深く、あなたがたの霊は前進して今日のメシアであるキリストに従うようにと語っています。あなたがたはこれについて霊の中ではっきりしているかもしれないのに、霊から魂へ向きを変えます。あなたがたの魂の中の思いは迷い始め、これがあなたがたの魂をさまよわせるのです。あなたがたの魂と霊が混合しているので、私はもろ刃の剣よりも鋭い神の生ける言葉を引用したのです。それはあなたがたの混合を刺し通し、霊を魂から切り離して、あなたがたがいかに愚かであるかを見せます。

適用:ビジネスパースン、大学院生編

証私は職場の複雑な状況で、どのように進んで行くべきなのか理解できず、悩み、苦しみ、躊躇することを頻繁に経験しました。特に、企業買収に伴う転職の時には、どの会社に転職したらいいのか分からず、また受けても採用されるかどうか分からず、大いに悩み、躊躇しました。そのような状況で、主は哀れな私を憐れんでくださり、「自分の天然の感覚ではなく、御言葉を読み、祈り、御言葉から来た感覚である信仰に注意を払うように」と言われました。私は1ペテロ1:24～25を思い出しました、「『すべての肉は草のようで、その栄光はすべて草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。しかし、主の言葉は永遠に存続する』。これが、あなたがたに福音として宣べ伝えられた言葉です」。私は主の語りかけに応じて祈りました、「主イエスよ、私の魂の感覚は価値がありません。私は御言葉の祈り読みから来る霊の中の信仰の感覚を尊びます。私は時代の流れを含むすべてを洞察することはできませんが、あなたはすべてをご存じです。そして、あなたはすべての人・事・物を私の益のためにアレンジしてくださいます。私の責任は、霊を活用し、信仰によってあなたを享受し、あなたに従って行くことだけです。私は価値の無い堕落した魂の感覚を無視し、霊の中の信仰の感覚に完全な注意を払います」。私は自分の魂の感覚、不信仰な感覚が非常に強いと感じたので、このような祈りを何度も何度もしました。私が聖書の言葉に従って祈る時、私の内なる人、再生された霊が増強されました。そして徐々に信仰によって、ビジネスライフにおいて、迷い、躊躇がなくなり、真っすぐに、神のエコノミーの道を歩めるようになりました。

神戸に在る召会 交わりと報告事項

1. **YouTube福音集会：**
   録画担当地区：3/24 六甲、3/31 合同@魚崎。
   4月から若者の働きを強化するために、第1週目、第2週目は次のように変更します。
   第1週目:YP/本山/三宮・神戸
   第2週目：六甲/魚崎・六アイ/夙川
   但し、YouTube録画担当でない地区も、福音集会を毎月一回行ってください。
   第3週目：YP、第4週目:六甲、第5週目:合同は変更ありません。
2. **預言準備集会：**
   次の日の主日に、YouTube福音集会録画担当地区が福音集会の準備として行います。
3. **主日福音集会OLの交わり:**
   毎週水曜日20:30-21:00
   Zoom ID:374 864 5537
4. **海外からの兄弟姉妹の訪問スケジュール：**
   3/27-4/1　Samuel兄弟一家（オーストラリア ブリスベン）
   3/29-4/5　王B一家(台湾基隆 六甲/三宮)
   4/20-24　台北市100集会所（21名）
5. **Zoom等の集会：**
   Zoom等で主日集会に参加する人は、神を礼拝する敬虔な態度が必要ですので、特別な理由がない限り、カメラを開けてください。家から参加する時も、自分を聖別して参加してください。
6. **台湾全時間訓練生との福音開展：**
   4/1(月)～5/5(主)まで滞在し、共に福音開展に取り組みます。4/2（火）キックオフミーティングを祈りの集会の時間を使って六甲で行います。